



行本会計事務所

「守秘義務を重視し、セキュリティに関する意識が高い会計事務所の業界において、WebExのセキュリティと信頼性は非常に高く評価できる。」

— 行本会計事務所 事業開発部 課長 岡本 辰徳 氏

高いセキュリティと可用性の WebEx Meeting Center で、 全社を統制



業種 会計事務所

WebEx アプリケーション WebEx Meeting Center

概要

行本会計事務所は WebEx を利用して各支店とのミーティングを実施。事務所内の統制や経営計画業務の推進に役立てている。更に全国の会計事務所と WebEx を活用した勉強会を行うことで、顧客に経営計画をサポートするためのノウハウを蓄積している。

行本会計事務所について

業務内容

経営指導業務、会計業務

本社所在地

山口県山口市矢原 642-26

従業員数

50 名

WebEx 導入：2006 年 9 月

行本会計事務所は山口県の本部を拠点として同県内、広島県、福岡県に支店を持つ、会計事務所の世界では数少ない構成の税理士法人である。決算や税務申告などの会計関連業務の他に、経営計画の策定や人事制度の構築、中小企業の M&A を仲介するなど、地方の中小企業を対象に幅広い業務を展開している。クライアントの企業も大阪から宮崎まで広く範囲である。特に、中小企業ではあまり実行されていない経営計画の立案と実績監査などを行う、未来会計業務の推進に力を入れている。

導入前の課題

現在取り組んでいる経営計画業務は、将来の計画を作成し、その計画に対する実績を毎月タイムリーにチェックして、計画と実績のずれを指摘し、改善案などを提供する業務である。毎月スタッフが経営者のもとへ足を運び、顔を合わせて経営計画を立てている。

通常の会計業務とは異なり、計画や実行内容の資料を紙ベースで作成してチェックするだけのコミュニケーションでは役に立たないため、経営者と顔を見ながらのやり取りを行うことを重要視しているが、移動にかかる距離や時間が問題となっていた。事務所内でも各支店との間でコミュニケーションを取るために月 1 回会議を行っていたが、この会議だけではなかなかコミュニケーションが取れない状況でもあった。

導入の結果

経営計画のシミュレーションには専用のソフトを使用しているが、このソフトの提供元であり WebEx の販売パートナーでもある株式会社 MAP 経営から、WebEx のサービスを紹介された。「商品がない無形のサービスを提供する業界なので、経営者と話をする上で、事務所ごとにコミュニケーション能力の差が出てくると考えています。そうした中で、将来的にお客様とのコミュニケーションツールとして使用するために、Web 会議システム

は知識として持っておかなければならないツールであることを MAP 経営様より教えていただきました」と岡本氏は言う。まずは事務所内でのコミュニケーションをしっかりと高めていくのに活用し、最終的にはお客様にサービスとして提供できるようにすることを目的として、WebEx を 2006 年 9 月に導入した。導入の際には、守秘義務が含まれるといった業務の性質上、WebEx の高いセキュリティと可用性も重要な決め手となった。

以前行っていた各支店との月 1 回の会議は、WebEx Meeting Center を利用して全社員が参加する毎日の朝礼となった。各支店で 1 台のパソコンを使用し、モニター画面の前に社員が集まり、必ず社員の顔が見られる状態で、朝の挨拶から全社員が共有する情報の報告などを行っている。朝礼以外には、毎週月曜日に事務所内の所長、所長代理、本部長、各支店の支店長と課長クラスの管理職員が WebEx を利用した面談を行うようになった。今週 1 週間の行動予定と、先週 1 週間の行動予定に対する進捗状況および結果報告を所長、所長代理、本部長とネットでも対面して面談している。

更に、クライアントとの間で数回 WebEx でのミーティングを試みてみたが、クライアント側でのインフラの問題で実現には至っていない。社内でインターネットを使える環境が整っていない、あるいは経営者自身がインターネットに関する知識を持っていないケースが殆どである。「これが地方特有の現状なんです」と岡本氏は言う。クライアントとの利用に関しては、先方の環境が整い次第すぐに取り組みを始めようと考えている。

“ WebExを使った顔を見ながらのコミュニケーションが、事務所内の統制や経営計画業務には不可欠である。”

— 行本会計事務所 事業開発部 課長 岡本 辰徳 氏

導入後の効果

WebEx Meeting Center を利用した朝礼を行うことによって、相手の顔が見えるという安心感がもたらされるようになった。社員がカメラに写ることで緊張感も生まれ、引き締まった状態でのミーティングが行えると共に、全社員が同時に同じ方向を向いて、同じことをできるという効果もあった。「支店を持つ会計事務所として統制を取っていくには、少なからずこういうことを最低レベルで行っていないと統制は取れないのではないかと思います」と岡本氏は言う。

管理職員の間で行われる毎週月曜日の面談についても、従来は所長、所長代理、本部長の3名が各支店に出向くことが不可能であったが、WebEx の利用によって面談が可能になった。経営者の将来をサポートする経営計画の業務を行う上で、自分たちが先のことを考えていなければならないという、未来会計への取り組みが一步前進した。

また、WebEx のセキュリティも高く評価されている。会計事務所の業界では業務の性質上、守秘義務があるため、セキュリティおよび情報の管理に関しては業界の中でも意識が高い反面、紙ベースでやり取りする風習から抜けられない現状がある。セキュリティと信頼性の高い WebEx を活用することは、従来型の業務体制から抜け出すきっかけにもなっている。

今後の展開

今後クライアントのインフラに関する問題が解消されれば WebEx を活用した会計業務を導入する予定であるが、その前に事務所内で WebEx のツールを当たり前のように使いこなせるよう、内部での利用を強化している。「ユーザーの環境が整備されてから自分たちが使い始めるようでは、数年間出遅れることになってしまいます」と岡本氏は語る。同時に、株式会社 MAP 経営が主催する全国の会計事務所との Web ミーティングにも参加し、WebEx を実際に操作しながら経営計画の勉強や、他の会計事務所での動向に関して情報交換を行っている。WebEx の操作方法を学習しながら、経営計画のノウハウを蓄積しているのである。

「今の経営のままではいけないが、どう変えていけばよいか分からない」という経営者が増える中、経営者達の駆け込み寺のような存在となる会計事務所を目指している。また、こうした取り組みが中小企業の経営をサポートする一つのきっかけとなって、地方の活性化につながることも願っている。

ハイライト

- 支店間で行っていたミーティングに WebEx を使用することで、顔が見えるミーティングが可能となり、事務所内の統制が円滑に。
- 業務の性質上、守秘義務があるため、WebEx の高いセキュリティと可用性は、導入の重要な決め手となった。
- 株式会社 MAP 経営主催の WebEx を使った勉強会で、他地域の会計事務所と情報交換を行うことによって、経営計画のノウハウを蓄積。